

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 59

森・川・地域が生きる川づくり

高知県 高知市長

おかざき せいや
岡崎 誠也



高知市は高知県のほぼ中央に位置し、浦戸湾の奥に発達した都市です。高知市の名称は山内一豊が大高坂山に築城を行い「川中山」としましたが、連年の水害に悩まされ「高智山」と改めたことが起源となっています。このことから分かりますように、高知市は河川の中に発達した都市であり、たびたび水害の被害を受けてきました。特に、昭和45年の高潮、昭和50年・51年連年の台風、さらに平成10年の'98豪雨など、記録的大雨による災害に見舞われました。このため、河川堤防の改修やポンプ場の設置などを行い、災害に強いまちづくりを積極的に進めてきました。

特に、総延長31.1km、流域面積170km²の鏡川は高知市の中心部を流れる代表的な河川であり、度重なる氾濫を治めるため人柱となったお千代地蔵の安置など、水害に対する伝承も残っています。高知市は平成17年1月1日に鏡村・土佐山村と合併し、鏡川の源流域から河口までの流域全体が、一つの市域に包括されるという全国的にも珍しい自治体となりました。この特性を活かし「森と海とまちをつなぐ環境軸」とした、新たな「鏡川清流保全条例」を策定し、森が生き・川が生き・そ

して地域が生きる川づくりを目指しています。

なお、市政施行100周年記念事業として平成元年より、市民総参加のもと浦戸湾と湾に流れ込む鏡川など7河川の一斉清掃を行い、水質の浄化と親水・美化意識の向上を図っています。平成17年度は7月17日に実施され、各河川の愛護団体や市民の協力により、1万1,800人が参加、回収されたゴミも127.7トンにのぼり、市民の間に海や河川の浄化に対する意識が高まっています。

また、二級河川介良川で「ふるさとの川づくり事業」の認定を受け、介良川親水公園の整備や「龍馬」生誕地近くの升形川で、清流を復活し人々を水辺に取り戻す「城下町の歴史を映す水辺づくり事業」などを実施し、豊かな自然にふれあうことができる川づくりを行っています。

水とみどりは人々に多くの安らぎを与えてくれます。子供のころ山々を走り回りながら、ワラビやアケビ採り、ヤマイモ掘など貴重な体験をしました。そんな、わんぱく時代を過ごした者として、美しい山々、川、ふるさとを守る気持ちを大切にしていきたいと思っています。



人柱伝承のあるお千代地蔵（鏡川堤防）



浦戸湾・7河川一斉清掃（山内神社前）



龍馬の生まれたまち記念館前の升形川



介良川親水公園